

(生活科・総合的な学習の時間・社会科)

船場に学び、人、地域とのつながりをめざす授業の工夫

大阪市立開平小学校 中島 順子 藤田 恵子 椿本 恵子

## 1. 研究主題設定の理由

本校は平成 25 年度から 2 年間「新聞を活用して言語力を磨き、情報活用能力を高める授業の工夫」を研究主題とし、生活科と総合的な学習の時間の授業研究に、取り組んできた。また、授業の工夫として、NIE と ICT を活用してきた。新聞を読んで、自ら課題を発見する場を設定し、主体的に学んだことを発表し、新聞にまとめて表現する場、互いの意見を交流する場を取り入れて実践してきた。また ICT は、NIE の実践より前に、研究主題に取り上げていた経緯があり、各教室に、プロジェクターや書画カメラを常設し、児童がパソコンやデジタルカメラ、タブレットなどを活用し、プレゼンテーションなどを行ってきた。

NIE の実践により、児童が低学年から新聞を読んだり、テレビのニュースを見たりし、世の中のできごとに興味や関心をもち、視野を広げるようになった。NIE の実践前は、学年によってばらつきのあった新聞の閲覧率が上がり、高学年では、全国学力状況調査の「新聞を読む」項目で、全国平均を上回る結果となった。また、ICT の活用では、友達と交流しながら協働的に、深く学ぶことで、コミュニケーション能力を向上することができた。児童が、調べたことを新聞にまとめる活動ではレイアウトや編集の仕方を工夫し、主体的に取り組むことができた。さらに、生活科と総合的な学習の年間計画を見直し、今後も継続して NIE や ICT を活用して学習できる単元を作り、それらが実施できるようにした。これらの実践は、次期学習指導要領でも大きく取り上げられている点でもある。しかし、この 2 年間、授業研究をしながら、年間指導計画を再編していく過程で、あらたに、本校の児童の実態があきらかになった。それは、校区内の高層マンション建設における児童数の増加により、本校が、船場に唯一残る地域の小学校であるという意識が薄いことや、児童も保護者も地域とのつながりや地域の人の思いに、触れる機会が少ない。そこで、昨年度から、生活科と総合的な学習の時間に加え、社会科の地域学習、地域の、歴史学習なども視野に入れた「船場に学び、人、地域とのつながりをめざす授業の工夫」を研究主題に設定し、授業研究に取り組んできた。

## 2. 研究の基本的な考え方

研究の 1 年目は、新しい教材開発に努めるため、教職員研修として夏休みに企業家ミュージアムや道修町の田辺三菱製薬の見学などを実施した。また「わが町、船場」という読本を活用した。読本「わが町、船場」とは、大阪の歴史的・文化的背景に特色のある船場地域と開平小学校の関係やその意義と役割について、平成 6 年当時の教職員が編纂し、出版した本である。本校では、児童一人に 1 冊配布される。また、地域の人とのつながりについては、開平小学校の支援をしてくださっているボランティア「開援隊」の方々に学習への協力を求めた。本校は、明治 5 年の学制発布と同時にできた愛日小学校とその翌年にできた集英小学校が平成 2 年に統合してできた学校である。開援隊の中には、この愛日・集英小学校の卒業生の方がおられる。

低学年から、本校が歴史のある 2 つの学校が統合してできたこと、地域の方々の思いによって、残された船場で唯一の小学校であること、などが学習できるように、生活科の単元との結び付きを考えて、教材開発を進めた。また、船場は、江戸時代から明治にかけて緒方洪庵の適塾や大阪の商人が設立した学問所、懐徳堂などがあった教育に熱心な地域であった。3 年生以上では、歴史に深いゆかりある地域の特色を前面に出した地域探検を通して自らの将来を考えるキャリア教育とも関連させ、憧れや愛着をもって開平小学校を巣立っていけるように、総合的な学習の時間の単元を考えた。そこで、今年度は、昨年度の年間計画をもとに PDCA サイクルに則り、学力向上部で単元のねらいなどを見直し、各学年の実践が深まるよう、研究授業の実施月や系統性を提案して授業研究を進めた。

## 3. 実践の概要（実践事例）

### (1) 第 6 学年の実践「地域を伝えよう開平船場ガイド」

児童が地域について理解を深め、愛着や誇りをもつことができる地域学習へと学びが連続し、発展するように単元構成の工夫を図った。三重県鳥羽市にある菅島小学校の 5.6 年生と交流を実施した。事前学習において、自分たちの地域と島の暮らしの違いをはがき新聞に整理して、「ガイドブック」としてまとめた。事後学習では、「島っ子ガイド」や伊勢のガイドさんの話、実際に自分たちが見たり聞いたり感じたことを、思考ツール「X チャート」を活用して、大阪と比較してまとめた。菅島小学校の児童が島のことを大切にしている思いや島に対する誇りをもっていることに気づき、「自分

「私たちもガイドをしてみたい」「菅島小学校の児童に自分たちの地域のことをもっと伝えたい」という思いから、「船場ガイドをしよう」という新たな課題へと学びを連続・発展させた。また、地域の団体が発行している「ガイドブック」なども参考にしながら、地域調査をおこなった。

下級生や保護者にも「船場ガイド」をしたいという思いを学習課題に取り上げ、11月の「学習発表会で発表しよう」という単元につなげた。地域調査では、歴史的な建物だけでなく、今年できた水素ステーションなどを見つけて見学したり、船場通り名の覚え唄について地域の方に聞き取りをしたりした。児童は地域への愛着や誇りを持ち、これからの自分の生き方について見つめ、少し長い先も具体的に考えることができるようになってきた。出会いを大切に、活動を充実させることで、児童の意欲が高まり主体的な活動へとつなげ、学びのある実践ができた。

## (2) 第1学年の実践「かいへい いま・むかし たんけんたい」

これまでの学校探検に、より地域学習の視点を加え昨年度新設された単元である。昨年度の成果と課題、本年度の児童の姿より、カリキュラムを「地域」「自然」の2つの分野に焦点化し再編を行った。7月単元として、「かいへい たんけんたい（今の学校について気づきを深めていく活動）」を実施し、10月単元を「かいへい いまむかし たんけんたい」と再編し実践した。

1学期の学校探検を踏まえ、新たに児童が抱いた疑問を交流し、昔への興味関心と関連づけ、現実拡張アプリを活用した学校探検の場を設定した。昨年度は、学習課題を「指令書（ミッション）」という形で提示していたが、本年度はアプリによる自作アクティビティ「かいへい GO」を活用した。そこで、「かいへい小学校の いま むかし をつたえよう」という課題を設定した。調べたことをアクティビティ内にポスター（POP）として挿入することができることを伝えることで、『自分たちオリジナルの「かいへい GO」にしていきたい』という主体的な活動にしていけることができた。探究活動では、これまでの学習における「インタビュー」「図書による調べ学習」という探究活動の手立てを活用していこうとする姿が見られた。

本実践では、『わが町 船場』の活用と合わせ、より低学年が学びを深めやすいよう本年度自作した『わたしたちの学校 開平小学校』を活用した。互いの気づきを交流する場の確保を大切に。単元末のポスター（POP）づくりは、「より相手に伝えるためには」という視点をもって情報を精選した。POPを交流する場を設定し、交流により新たな気づきが生まれた。

本実践の成果として、第1に児童の「学校に対する関心」と「疑問解決への意欲」を高めることで、児童自身が「学びに向かう力」を育成できたことである。第2に単元全体を通して、「気づき」の多様な共有の場を設定したことで、互いの「気づき」からさらなる「気づき」が生まれ、より「深い学び」「主体的な学び」が生み出されたことである。また課題として、1年生にとっては調べたことすべてが大きな発見であったため、情報の精選のポイントを明確にした活動展開を考えていく必要がある。

## 4. 2年間の成果と課題

本研究の成果として挙げられるのは、本校独自の生活科や総合的な学習の時間に、系統的な「地域学習」を取り入れ、また既存の平和学習、キャリア教育をも含めたカリキュラムを作成できたことである。教材開発にあたっては、これまでの単元や他教科・領域との関連を考え、地域や人とのつながりが希薄になっている児童が、主体的で対話的な学びができるよう、指導者が児童に何を伝え、何をとり上げ、どんな力をつけさせたのか、授業研究や討議会を通して確認し、地域に足を運び、修正しながら作成した。

課題としては、学級担任が、児童の思考の流れを考えて、学年の横軸の探究活動がスムーズにできるよう、学習の連続性や単元のつながりをより意識して指導にあたる必要がある。生活科も総合的な学習の時間も、その教科の特性からカリキュラムがあっても、児童の実態に合わせて課題設定が変化することが想定される。その時に指導者が、児童の思考を汲みながら、指導時数とカリキュラムの横軸と縦軸を見て、横断的に実践していかなければならない。効果検証のアンケートの取り方も、児童の変容を捉えやすい、もっと評価ができるような工夫ができたのではないかと考えている。

昨年12月、次期学習指導要領に向けた答申が示された。今後児童生徒が身に付ける力は、教員から授かる「受け身の知識」ではなく、「知識を使って、自ら何ができるか」という主体性と「課題解決力」を重視する転換を打ち出している。今後も、このカリキュラムを生かしながら児童が思考・判断し、主体的で対話的で深い学びができるように研究を進める必要がある。